

お薬師様ご縁日

浪曲の夕べ

◆お薬師様拝観時間

午前10時～午後6時30分

※上演中は、拝観できません。

秦野市文京町 天徳寺本堂にて

2024年
9月12日(木)
開演 午後5時
(開場 午後4時30分)
入場無料



毎年9月12日は

本堂左の間に祀られている

身体健全・病氣平癒の

お薬師様のご縁日で

お厨子の扉が開きます。

どなたでも入場できますので、是非ご来寺、お楽しみ下さい。

・前説 玉川わ太 (たまがわたい) & 東家三可子

『浪曲とは…』(5分)

・玉川わ太

『お楽しみ』一席(15分)

・東家三可子

『木村の梅』一席(25分)

・国本はる乃

『子別れ峠』一席(30分) 曲師 玉川鈴 (たまがわりん)



◆募集人数…80名(いす席 全て自由席)

◆お申し込み方法…裏面の申し込み用紙をご持参、FAXのいずれかでお申し込み下さい。

◆申し込み締切…8月末日。但し定員になり次第締め切ります。

※駐車場はありませんので、お車でのご来寺はご遠慮下さい。

◆お問い合わせ先…天徳寺 TEL: 0463-81-0899

FAX: 0463-84-1019

(FAXの方は、裏面に住所氏名をご記入の上、FAXして下さい。)

浪曲師 秦野で唸る！

浪曲(浪花節)とは？！

浪曲師と曲師(三味線)二人で物語を語る、日本の語り芸の一種。広沢虎造や村田英雄、二葉百合子の名前などは聞き覚えのある方も多いと思われる。

江戸時代に願人坊主が行っていた「チョボクレ」や「あほだら経」などの大道芸がルーツとされ、明治時代に「浪花節」としてほぼ今の形になった。

レコードやラジオで人気が高まり、1940年代まで何度かの黄金期を迎えた。最盛期には3000人もいたという浪曲師人口は、現在では浪曲師・曲師合わせて全国で100人ほど。

譜面がなく、その場の空気感で変化する舞台は一期一会。

◆プロフィール

【国本はる乃(くにもとはるの)】

茨城県稲敷市出身。
小学校四年生当時から父の知り合いだった「国本 晴美」師匠のもとで浪曲を習い始め
2013年6月に正式入門。
2013年12月1日木馬亭にて初舞台。
2016年9月25日に名披露目。
「令和5年度 花形演芸大賞」銀賞受賞。



【東家三可子(あずま みかこ)】

秋田県横手市出身。
2016年、初めて生の浪曲に触れ、声の迫力 三味線と二人の掛け合いで作り出す世界に魅せられる。やがて『浪曲定席木馬亭』に通うようになり、永谷のお江戸演芸スクールを通じて、現在の師匠に出会う。2018年 富士路子(五代目 東家三楽)に入門。約4年半の前座期間を経て、2022年11月、年季明け。



【玉川わ太(たまがわ わだい)】

1995年7月 石川県生まれ
2022年4月 玉川太福門下入門
2022年9月 木馬亭楽屋入り
2023年2月 芸協楽屋入り



【玉川鈴(たまがわ りん)】

長野県出身。多摩美術大学卒業。大学在学中に浪曲と出会う。
浪曲の即興性が、大学で学んできた舞踊や演劇とつながっていると感じ、そこから曲師に惹かれ志す。
2018年に日本浪曲協会の三味線教室に通い始め、2020年3月に師匠玉川みね子に入門。



◆演 目

【子別れ峠】国本はる乃

佐野屋という宿屋を訪ね 東京からやってきた吉村と節子は与兵衛の馬車に乗り道を急いでいた。道中話をしていると与兵衛の口から懐かしい名前を耳にした2人。その子に会うと2人は涙を流した。
さて、その訳とは…。

【木村の梅】東家三可子

『天下のご意見番』大久保彦左衛門。久々に登城すると見事な梅が咲いている。しかし、この梅の木の番を任されている茶坊主たちは困っていると言う。
彦左衛門の話の聞くと…。

天徳寺 FAX 0463-84-1019 (FAXの方は切り取らずにお送りください。)

..... キリトリ線 (お申し込み用)

2024年9月12日(木)『浪曲の夕べ』を申し込みます。

氏名 _____

TEL _____

ご参加のご家族・お友達氏名 _____